

衆議院議員

たまき雄一郎

ゆういちろう



新しい時代を切り開く 「未来先取り政党」をめざして

1月22日から通常国会がはじまりました。私たちの考える理想の社会の姿や政策を、分かりやすくアピールしていきたいと思ひます。特に、人口減少問題は集中的に取り上げたいと思ひます。なぜなら、日本が直面する最大の課題だと考えるからです。私も論戦の先頭に立つつもりです。

安倍政権が誕生してから5年が経ち、確かに、株価や雇用情勢は堅調です。しかし、その一方で、人口減少が進み、国の借金は増え続けています。にもかかわらず、予算編成や税制改正を見ても、過去の延長線上。課題の先送りが目立ちます。

奇しくも、来年5月1日からは新しい元号になります。平成の時代が「先送り」の時代だとしたら、同日から始まる新しい時代は、「先送り」ではなく「先取り」の時代にしたい。そして、わが党は、そんな新しい時代を切り開く「未来先取り政党」を目指します。

ひとつずつ、着実に国民の期待に応えられる政党になるよう、がんばっていきたく思ひます。引き続きのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

衆議院議員 **玉木雄一郎**

玉木雄一郎 (たまき ゆういちろう) プロフィール

昭和44年、さぬき市生まれ。高松高校、東京大学法学部、米国ハーバード大学大学院卒業。財務省主計局主査などを経て、平成21年、衆議院初当選、当選4回。平成28年、民進党代表選に出馬。民進党前幹事長代理。平成29年12月、希望の党代表に就任。



フェイスブックで随時活動を更新中!

たまき雄一郎 検索

ホームページ & メール

HP: <http://www.tamakinet.jp/>
✉ pr@tamakinet.jp

事務所・連絡先

寒川事務所

〒769-2321 香川県さぬき市寒川町石田東甲814-1
TEL: 0879-43-0280 FAX: 0879-43-0281

坂出事務所

〒762-0032 香川県坂出市駒止町1-2-20 サンコート1階
TEL: 0877-46-1805 FAX: 0877-43-5595

国会事務所

〒100-8981 東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第1議員会館706号室
TEL: 03-3508-7213 FAX: 03-3508-3213



きたかが結果を左右すると思ひます。

玉木●私が代表としていけば、成し遂げたいのは、わが党を「選挙に強い政党」にすることです。語弊を恐れずに言えば、希望の党を選挙中心の政党にしたいんです。選挙とは、民主主義のプロセスを経て、有権者の皆さんから正当性をちようだりする厳粛な儀式。皆さんから期待と信頼をいただくためには、やはり皆さんが困っていること、不安に思っていることに対してきちんと向き合い、その解決策を出していくことが大事。できるだけ現場を歩く、人の声を聞く、有権者に向き合う。こういう地道な活動を丁寧に行われる組織文化を作り上げていきたいと思ひています。



階●我々のようになんども選挙を乗り越えてきた人間は、自分ごとだけでなく、全国の同志を当選させるための活動も重要

です。玉木●そうですね。蓄積した選挙のノウハウをみんなを持ち寄り共有して、選挙に強い軍団になることがものすごく大事だと思ひます。

2018年の目標

階●いくつつか、希望の党を表すキーワードが出てきました。「土のにおいのする政党」「未来先取り政党」「選挙に強い政党」。そういったことも踏まえて、2018年の目標を最後にお聞きしたいと思ひます。

玉木●2017年は選挙もあり、いろいろな混乱の中で希望の党に50数人が集まりました。立ち上げに奔走した年でしたが、2018年は反転攻勢、攻めに転じていきたい。優秀な人材が集まっていますので、それぞれの持っているいろいろな能力を国民に広く知っていたら、他党とは何か違うかと、希望の党にはいい人がそろっているなというところを、実感していただけるような国会論戦を展開していきたいと思ひます。わが党に対する信頼と期待

を大きく膨らませる一年にしたいです。

階●2018年、おそらく政府与党は憲法の問題や安保の問題をクロージングアップし、わが党も党の立ち位置を問われるような場面もあると思ひますが、憲法や安保については、党としてどのように向き合っていくつもりでしょうか。

玉木●憲法や安保について、わが党の姿勢について心配されている方もいると思ひます。安倍政権が進めているような改憲のやり方、そして中身、また2015年に通過した安保法制についてはやはり問題が多いと思ひます。このことに対し、我々は堂々たる議論を挑んでいきたい。我々はその議論を正しい方向に導いていく、与野党の議論を引つ張っていく、そんな論戦を行っていきたく思ひます。その

希望の党新ポスターができました

キャッチコピーは「ひとつずつ、希望に変えていく。」
地道に、着実に課題解決に取り組み姿勢を込めました。
ポスター掲示にご協力いただける方は、寒川または坂出事務所までご連絡ください。



際に大切なのは、日本が戦後守り抜いてきた平和主義をどう継続していくのか。また、憲法は権力を縛るための法体系ですから、権力が好き勝手やれるように改憲することには私は反対です。国民の権利を守るために、おかしな国家権力の行使に限定をかけていく、歯止めをかけていくという視点で、議論を深めていきたいと思ひます。

階●ありがとうございます。玉木さんの地元には大平正芳さんという名総理がいらっしゃって、私の地元には原敬さんとか米内光政さんという歴史に名を残した総理がいます。そういう先人の偉業を胸に刻みながら、追いつき追い越せの気持ちで頑張りたいと思ひます。これからも力を合わせて頑張りましょう。今日はお忙しいところ、ありがとうございます。

地方に希望を、未来に希望を。



(Mission2017年12月12日収録より)

昨年10月の衆議院総選挙の直前に発足した希望の党。日本の政界に新たな一歩を踏み出した新生政党の今とこれからを、代表・玉木雄二朗と幹事長代理階猛が語る。

希望の党の現状と課題

階 玉木さんが希望の党の代表になられて1カ月ちょっと。この間を振り返るとどんな感想をお持ちでしょうか。

玉木 階さんも含めて、多くの優秀な人に支えられているなど実感しています。代表でしかできないこともあります。それ以外に経験豊富な議員の皆さんとうまく役割分担をしながらやっていくことが大事かなと。それぞれの役割において皆さんが力を発揮できるように心がけています。

階 現在希望の党は、支持率も含めてあまりかんばしくない状況ですが、党の現状をどうお考えですか。

玉木 選挙の際には、有権者の皆様には大変なご迷惑や混乱を与えてしまったと思います。ここは反省しなければなりません。ただ、当時の前原前進黨代表が、大きなまとまりを作った今の安倍一強に対抗しようと



目指すのは、「土においのする政党」「未来先取り政党」「選挙に強い政党」

したこと自体は間違っていないかつたと思われ、緊張感のある勢力を作っていく必要性は今なお変わっていないと思えます。ただ、意図せざる結果として3つに分裂してしまった事態については、国民・有権者の皆さんには率直に申し訳ないなと思っております。政権交代が可能を受け皿をどう作っていくのかというのを頭に置き、次への展開に向けた構想を常に描きながら、今は党の足腰を強くしていく時期ではないかと思っています。

階 党をしっかりと形作っていくこと、3つに分かれたものを統合していくこと、その両方をいかにバランスをとっていくのかは、最も難しいところであり有権者の皆さんも心配している点だと思います。

玉木 他党とも、連携するところは連携していかねばなりません。1月からの通常国会で具体的な連携を探っていくことになると思いますが、そのためにも、地方組織も含め、まず自

と考えています。この3点は、わが党の中小企業政策の柱として、具体的な法案として形にしていきたいですね。

階 今政府は、雇用を増やしたり法人税を減税するという話をしていますけれど、それだと結局、赤字の中小企業やほとんど赤字が出ていない企業は使えないんです。今おっしゃった社会保障料の減免は、すべての企業にちゃんと恩恵がいきますから、これは我々の党が目玉政策でもありますね。

玉木 二つ大事なことがあります。それは、政権交代をするんだという意思を常に忘れないことです。そうすれば単に批判するだけの政策が出てこなくなり、自分たちが政権をとったら何をするかという現実的な

分たちの足元を固めることが必要です。

階 私は地元で、これまで仲間としてやってきた民進党の皆さんとこれからも一緒にやっていくと思っています。党としてもそれは歓迎するということですよ。

玉木 地方組織のあり方は地域によってさまざまです。ですから、そこは地域ごとに柔軟に決めていただけて結構です。地方議員さんがやりやすい環境をサポートし、ご支援いただいた組織の皆さんが困らないように、十分に配慮した進め方をしたいと思っています。

実現したい政策

階 それでは政策の話に移ってきます。昨年11月の代表質問で「土においのする政党」という言葉が出ましたが、土といえば農業。岩手の基幹産業でもある農業について、我が党はどのように取り組んでいくのでしょうか。

玉木 希望の党は、3つの保障を大切にしていきたいと考えています。ひとつは年金・医療・介護の社会保障、そして現実的な国家安全保障、そして食料安全保障です。日本国民が食べる一定割合の食料を、日本の国土で、日本国民の手によって生産していかねば、いざというときに、十分な食料を確保できないということが起きるかもしれません。ですから、食料安全保障を国家の重要な柱とし、地域の基幹産業である一次産業、特に農業には重点を置いていきたいと考えています。

階 なるほど。また、地方では農業に限らず、人口減少や人手不足、高齢化なども深刻な問題になっています。

玉木 希望の党は地方出身の議員が意外と多いんです。地域、現場の課題を丁寧に吸い上げ、解決策を示していける。そういう姿勢も我々の一つのブランドにしていきたいと思っています。各議員には、年末年始に地元に戻ったら、地域の「リアル」な問題を聞いてきてほしいとお願ひしています。現場の声を聞き、それを新鮮なまま「産地直送」して大臣や総理に問う。そんなスピードリーな対応ができるようにしていきたいですね。

階 アベノミクスは、今だけよければいい、あるいは一部の人だけ

階 猛

昭和41年、盛岡市生まれ。東京大学法学部卒業。(株)日本長期信用銀行(現新生銀行)入行。新生銀行法務部(旧法務コンプライアンス統轄部)次長、みずほ証券株式会社 総合企画部経営調査室 主任研究員などを経て、平成29年10月、衆議院総選挙、当選。現在、希望の党幹事長代理。



政権交代への戦略

階 政策の話は尽きませんが、次に政権交代についてはどうお考えでしょうか。

玉木 二つ大事なことがあります。それは、政権交代をするんだという意思を常に忘れないことです。そうすれば単に批判するだけの政策が出てこなくなり、自分たちが政権をとったら何をするかという現実的な

政策を考えられるようになり、まず我々が足元をかためることが第一だと思えます。中長期的に見れば、可能な限りの連携をとっていくことが大切だと思えます。さまざまな協力の形がありますが、私たちが中心を担うんだという自負を持ち続け、仲間を増やしていくことが大事だと思えます。

階 そのために、どんなふうにも育ってほしいかと思われませんか。

玉木 私はその意味では、わが党に希望を持っているんです。というのも、これだけ厳しい選挙を勝ち抜いてきた人たちがばかりなので、すごく優秀な人材がそろっているんです。わが党の今の最大の資産は、集まった国会議員の質の高さ。これが次の政権に向けた核になります。我々は、単なる批判だけでなく、先に起こることを予測して、それに備えるような政策をどんどん出して、「未来先取り政党」としての位置付けを明確にすべ



すべての国民が恩恵を受けられる、「現場の声」を大切にす政党に